

御池沼沢ニュースレター

令和7年4月22日 Vol.134

今年度も御池沼沢植物群落の環境保全活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。4月の活動もみなさんのご協力により無事進めることができました。

環境保全の内容は群落の様子により変わることがあります。ミクリガヤやハルリンドウなど、増殖あるいは復活の経過観察している植物もあります。ニュースレターでは毎月の作業をもとに、状況や成果を共有していきます。

タケの除去の作業位置

＜4月の活動内容＞

★西部指定地水源林でのタケの除去ほか

★西部指定地湿地内での観察会

今年はヨシの芽生えが遅く、タケの除去に取りくんでいます。

例年、西部指定地ではヨシが2～3mの高さになることがあります。ヨシの生育が広がるのをとめ、観察環境をよくするため抑制作業を続けています。

作業後、観察会を実施しました。トウカイコモウセンゴケやモウセンゴケ、ショウジョウバカマがみられました。御池沼沢植物群落にも春は訪れています。



タケの除去



トウカイコモウセンゴケ



ショウジョウバカマ

5月の活動予定 午前9時30分から

5月 10日（土） 西部指定地 北端ヤチャナギ周辺除草

5月 21日（水） 東部指定地 松の木周辺除草

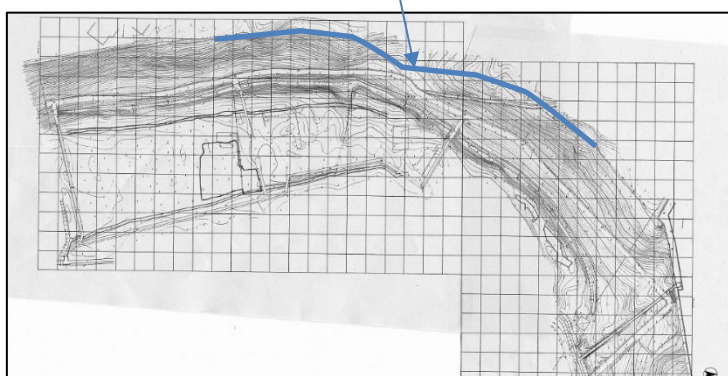
5月 28日（水） 東部指定地 ハルリンドウ・ミクリガヤ周辺除草

御池沼沢ニュースレター

令和7年5月21日 Vol.135

5月10日の環境保全活動、5月17日の自然観察・保全体験会は、雨天のため残念ながら開催することはできませんでしたが、引き続き、御池沼沢植物群落の環境を保全したり、活用環境を整備したりする活動を進めてきました。

○5月2日に、自然観察・保全体験会でお世話になる木村裕之さん、門脇寿美さんと西部指定地を下見しました。図の青線部分を歩くとフェンスの奥にタケの群落が見えました。タケはメリノール学院付近まで続いています。防根シートを設置はしているものの、指定地でタケを見つけた時には、光合成ができぬよう伐採し、タケに水分を吸われることのないように駆除の確認をしました。途中、水源林の中にキツネの巣があることを教えてもらいました。



○中央観察橋や湿地内西側水路沿いにかけて、トキソウ や ツボスミレ、トウカイコモウセンゴケ を見つけました。他の植物がヨシに被圧されないよう周辺の除草・集草に加えて、ヨシの刈り取りを行いました。アカメガシワなどの樹木が樹林化しないよう、樹木の剪定や伐採も行っています。



6月の活動予定

日	時間	場所	内容
6月4日(水)	午前9時30分から	西部指定地 南端	食虫植物 保全範囲 除草
6月11日(水)		西部指定地 中央観察橋周辺	除草
6月21日(土)		西部指定地 シラタマホシクサ周辺	除草・タケ駆除



6月14日(土)実施予定「自然観察・保全体験会」の参加者を6月9日(月)まで募集しています。上の二次元コードにて

四日市市シティプロモーション部 文化課 Tel.059-354-8238 bunka@city.yokkaichi.mie.jp

御池沼沢ニュースレター

令和 7 年 6 月 30 日 Vol. 136

令和 7 年 6 月は環境保全活動を 2 回実施しました。西部指定地の南端や、中央観察橋北において日照環境を改善するためヨシなど抑制種の除去を行いました。除去作業を進めた西部指定地南端では、ミミカキグサの小さい花が少しずつ芽生えてきています。今後もボランティアをはじめとする、市民の皆さんに、御池沼沢植物群落の本質的な価値や、食虫植物など生育する群落の魅力を伝えていきます。ぜひ西部指定地南端に芽生えたミミカキグサの様子をぜひ観察してみてください。



6 月 14 日には、自然観察・保全体験会を開催しました。講師に木村裕之さんと川村龍也さんを迎え、御池沼沢に生息する植物や鳥、昆虫などについて、実際に植物を見たり、鳥の鳴き声を聞いたりして学びました。あいにくの天気でしたが、15 名の方に活動を楽しんでいただきました。

◆観察会で見られた主な動植物

ヒクイナ：水田、水辺の草地に生息している。

西部指定地の中央観察橋から声が聞こえた。

トキソウ：5 月下旬、数を数えたところ 400 株以上が確認された。

ハナショウブ：花弁は黄色いのが特徴。

東部指定地で多く見られた。



7 月の活動予定

7 月 5 日(土) 東部指定地 ハルリンドウ周辺除草、ミクリガヤ観察
午前 8 時 30 分から 10 時 00 分 (7 月は通常より 1 時間早い実施となります)

7 月 30 日(水) 天然記念物学習会のご案内

「御池沼沢 5 つの謎を解き明かす」～その自然の姿と守りかた～
日時：令和 7 年 7 月 30 日(水) 10:00～11:30 (9:30 受付開始)

講師：四日市市文化財保護審議会委員

里山湿地研究所代表・愛知教育大学非常勤講師

富田 啓介さん

場所：四日市市総合会館 7 階 第 2 研修室

定員：40 名程度 (応募者多数の場合は抽選)

申込：名前、年齢、参加人数 (1 組 2 人まで)、住所、電話番号、メールアドレス (あれば) を明記して申込フォーム、または往復ハガキにて申し込んでください。

文化課「天然記念物学習会」まで。7 月 17 日(木) 必着

「令和 7 年度活動予定」の中で、8/20(水)に予定していた活動は、この学習会に変更となりました。8/20(水)の活動はありません。この学習会にぜひお申し込みください。



御池沼沢ニュースレター

令和7年7月28日 Vol.137

7月14日(月)、15日(火)は大池中学校1年生171名が隣接する西部指定地にて自然観察を実施しました。国指定天然記念物において湿地の重要性を学ぶ理科の自然観察の授業として、初めて行いました。これまで西部指定地に入って自然観察をしたことのある子どもは少なく、ヤチヤナギやモウセンゴケ、ノカンゾウやミミカキグサなど植物に着目しながら興味深く観察を進めました。



まず寒地性植物であるヤチヤナギの観察をしました。東北地方以北の湿地では普通にみられる落葉小低木ですが、御池沼沢植物群落は日本の南限にあたることを伝えると、ここが南限であることを驚く様子が見られました。振り返るとトゲのあるヘビノボラズがあります。「百聞は一見に如かず」と言われる通り、目の前の湿生植物をじっくりと観察する様子が見られました。

次にモウセンゴケやトウカイコモウセンゴケ、ノカンゾウの見学です。ノカンゾウは朝咲いて夜にはしぼむ「一日草」と言われる通り、14日と15日で花が開いている場所が違いました。子どもたちにユリ科橙赤色の華やかな花をどうしても見せたいと思っていたため、無事咲いてくれるかどうかドキドキしていましたが、水路沿いに鮮やかな姿を見せてくれました。

最後に、南側のミミカキグサを保護しているゾーンをたずね、ミミカキグサやムラサキミミカキグサ、ホザキノミミカキグサを観察しました。子どもたちは足場からルーペを向け貴重な食虫植物の観察をしました。6月に環境保全ボランティアの皆さんや自然観察・保全体験会にてヨシなど抑制種の除去に取り組んでいただいた場所です。足場の中にはミミカキグサの保全のため、ヨシが残ってしまった部分があるのですが、子どもたちはヨシの除草した部分と残っている部分を比べてどちらがミミカキグサの生育する数が多いか比べていました。子どもたちは、一目瞭然で、ヨシを除去したところに多く植生していることに気づき、さらにめずらしいムラサキミミカキグサなどを探す様子も見られました。

御池沼沢植物群落では、子どもたちなどの新たな観察者が少なく、御池沼沢植物群落の価値を伝えていくことが課題となっていました。大池中学校様のご協力もあり貴重な文化財の活用が大きく前進しました。ありがとうございました。

自然観察当日の様子は7月16日付中日新聞北勢版や大池中学校ホームページでも紹介されました。大池中学校ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/ohike/nc2/htdocs/>

「令和7年度活動予定」の中で、8月20日(水)に予定していた活動は、7月30日(水)の天然記念物学習会に変更となりました。8月20日(水)の活動はありません。

7月30日(水)には、本市文化財保護審議会委員である、富田啓介さんを迎え、天然記念物 学習会「御池沼沢5つの謎を解き明かす」～その自然の姿と守りかた～を行います。御池沼沢の貴重な姿や保全の仕方について分かりやすく講演していただきます。次号での紹介が楽しみです。

御池沼沢ニュースレター

令和7年8月30日 Vol.138

7月30日に、天然記念物学習会「御池沼沢5つの謎を解き明かす～その自然の姿と守りかた～」を講師の富田啓介さん（愛知教育大学非常勤講師）をむかえて開催し、学びましたので報告します。

天然記念物学習会

「御池沼沢5つの謎を解き明かす」～その自然の姿と守りかた～

国指定天然記念物 御池沼沢植物群落の姿や保全の仕方について
5つの「なぜ」を解き明かしながら、楽しく学びます。

日 時	7月30日（水） 10:00～11:30（9:30 受付開始）		講 師 四日市市文化財保護審議会委員 里山湿地研究所代表 愛知教育大学非常勤講師 富田 啓介さん
場 所	四日市市総合会館7階 第2研修室		
定 員	40人程度（応募者多数の場合は抽選）		
対 象	小学5年生以上		

申込 名前、年齢、参加人数（1組2名まで）、住所、電話番号、メールアドレス（あれば）
を明記して申込フォームから。または、往復はがきにて文化課「天然記念物学習会」まで
7月17日（木）必着

天然記念物学習会申込

講師の富田啓介さんは、里山や湿地の研究と保全の支援の活動をされています。現在、四日市市文化財保護審議会委員でもみえます。里山湿地研究所代表を務められ、専門は地理学で、その分野の本を刊行されています。

「御池沼沢5つの謎」については以下の内容でした。

1. 御池沼沢はなぜ、ここにあるの？
2. 日本に御池沼沢のような湿地は、どれほどあるの？
3. 御池沼沢はなぜ、天然記念物なの？
4. 御池沼沢があると、どんなよいことがあるの？
5. 御池沼沢を守るには、どうしたらよいの？

5つの謎を地理学的観点から、興味深く学ぶことができました。御池沼沢のような湧水湿地は、日本の広範囲にわたってみられますが、特に東海地方・近畿地方・瀬戸内地方の丘陵地が中心になっています。三重県では、ここ北勢地域や伊賀地域の丘陵を中心に分布しています。御池沼沢植物群落の位置づけを列島規模で学ぶことができました。5の御池沼沢を守る点について、富田さんは「本来なかった外来種の除去」「他所からの移入（植え込み・播種・放流）は行わない」点を強調していました。日ごろ行っている御池沼沢環境保全活動の大切さを改めて認識することができました。



9月の活動予定 午前8時30分から

9月 17日（水） 東部指定地 ツルマメ・ミクリガヤ観察・除草

9月 20日（土）9:00～11:00 自然観察・保全体験会

※QRコードから応募できます。9/11が締め切りです。



御池沼沢ニュースレター

令和7年9月30日 Vol.139

本質的価値を伝え、訪れてみたくなるような植物群落をめざして

自然観察・保全体験会 開催

9月20日(土)、御池沼沢植物群落 西部指定地・東部指定地において自然観察・保全体験会を実施しました。途中小雨の降る中でありましたが、湿生植物や昆虫などに興味をむけた多くのみなさまとともに学習を進めることができました。保全種の生育環境を守り、抑制種を管理することの大切さを感じる機会となりました。

参加者が講師の先生の説明を聞いたり質問をしたりして、実りのある自然観察活動を進めることができました。



保全種のヌマガヤが、過剰に増えすぎることによって、他の湿生植物を圧迫（被圧）しないよう見守る必要があること、ハンノキは湿地を陸化させる一方でミドリシジミ（チョウ）の食草でもあるため、一定数は残した方がよいことなどを学びました。

環境保全ボランティアのみなさまにもご協力いただながら、保全にとりくんでいます。今後動植物の関係や特徴を考慮し、より細やかな意図を持って取り組む必要があると感じました。

西部指定地では現在シラタマホシクサの群落がみられます。ぜひ、東海丘陵要素の植物の一つであるシラタマホシクサの様子を観察いただければと思います。



10月の活動予定 午前9時30分からに戻ります。

10月11日(土) 西部指定地 抑制植物駆除

シラタマホシクサ範囲におけるアキノウナギツカミの除去

10月22日(水) 東部指定地 抑制植物駆除

セイタカアワダチソウ抜き取り